

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770403756		
法人名	有限会社 ヘルパーステーション小川		
事業所名	有限会社 ヘルパーステーション小川 ひまわりの家		
所在地	福島県いわき市小川町福岡字飯森37-1		
自己評価作成日	令和03年02月01日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和3年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれ四季折々の変化を楽しめ、穏やかな気持ちで過ごせる環境です。
最後まで、その人らしい生活が送れるように医療と連携し、支援しています。(看取りを行っています。)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍のなか、事業所独自に職員にPCR検査を受けてもらい、利用者・家族に不安を与えないようにし、これまでの日常と変わらず過ごしてもらえるようにしている。
重度化や終末期の対応について、本人・家族と話し合いその人に合ったケアをしながら、医療機関と連携し最後まで寄り添い、安全・安心して暮らせるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1日に、職員と利用者で、理念、心構えを唱和するなど、理念の共有とそれに基づく実践を心がけています。	人間を見つめる姿勢や利用者と同じ目線などを考え、理念を作成している。利用者・家族が安心し、利用者・職員が笑顔で過ごせるようにしている。毎月1日に職員一同が一緒に理念を唱和し、寄り添うことの大切さを共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや文化祭、クリスマスコンサート等があれば参加するなど、地域との交流を続けていますが、今年度はコロナの影響で参加できていません。	コロナ禍前、読み聞かせや傾聴ボランティア、寸劇を行うエプロンシアター、僧侶の話を聞くなどしている。公民館の文化祭の作品展示、夕方に小学校の校庭で、子供じゃんがらを見学するなど、地区のお祭りに参加し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度は、認知症高齢者の災害時一時受け入れを行うなど、地域の人々の事業所への理解を得たところですが、今年度はコロナの影響で人との接触が難しかったため、電話等での対応を行いました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、会議が開催できなかったため、推進委員の皆様には、随時電話等で、現在の状況を報告し、意見、要望等を伺いました。また、定期的にホーム便りで見聞報告を行っています。	電話の応対時に名前を言ってほしいとの話があり、すぐに実行している。地区消防団の活動について話があり、地区の消防団が約50名参加し、実際に放水をしてもらっている。地域の方に認知症の理解のための学習会開催を計画している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は、県や市からコロナ対策等で、指導をいただくことが多くあり、協力関係にありました。また、疑問、質問があった場合は、電話やFAXなどで、連絡をとりあいました。	居室の空き状況を知らせたり、研修の連絡やコロナに関する情報、介護度認定期間の延長、各書面監査の情報を貰っている。PCR検査の情報、ワクチン接種時期の情報を知らせたいと考えている。必要事項は関係機関に、先送りせずに確認するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束をしないケアは理解しています。しかし、認知症の進んだ利用者で、足腰がしっかりし、すぐに玄関を出て行ってしまふことがあり、限られた職員の中で、1日中ついていることもできず、命を守ることを優先し、時間を決めて玄関の施錠はありました。	拘束はしないことを基本にしている。言葉の拘束については、待って下さい、これはしないで下さい、ここを開けないで下さいなど制止の言葉を職員同士で注意を合い使わないようにしている。一人歩きする方には、職員が付き添い、可能な限り一緒に散歩するなどしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どういった行為が虐待にあたるかなど、部会や日常の中で随時学習し、虐待は絶対に行われることのないよう、管理者をはじめ職員全員で取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度については、社会福祉士の資格を持つ職員からの説明などを聞き、権利擁護に関する制度について理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書や、重要事項説明書の説明を行い、十分に納得し、理解していただいています。法の改定等があれば、その都度説明し、同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	偶数月に家族会を開催し、意見、要望などから、それらを運営に反映させる機会を設けていますが、今年度はコロナの影響で開催することができず、電話等で伺っています。	家族会の時、開始20～30分を職員不参加で、家族同士の自由な話し合いで要望を出して貰うようにしている。できるだけ歩かせてほしいとの要望に、職員で話し合い、共有ケアに反映させている。利用者の様子を家族が知りたい時は、細かく説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、部会を開催し、代表者の参加があり、そこで活発な討論を行い、出来る限り意見や提案等を反映させるようになっていきます。	月1度の部会、朝のミーティングなどに前もって議題を示し、意見や要望を貰うようにしている。夕方、レクリエーション、口の体操、リハビリを行ってはとの話があり実行し、利用者の活性化と絆を強めることが出来ている。資格取得については、積極的に奨励している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度は、職員の疲労度を考慮し、夜勤の勤務時間を短くするなどの就業時間の整備を図りました。また、パートを配置するなど、有給休暇を取得しやすい状態にしました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修、介護福祉士受験のための研修などが無理なく受講できるよう、勤務体制を整え、受験をサポートしました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や、小川・川前地区のケア会議等に参加するなど、同業者との交流は随時行っていますが、今年度はコロナの影響で開催は見送られています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は、前任ケア・マネジャーなどからの基本情報や、現在の状況を引継ぎ、本人が不安なく生活していける状態を整えておく。また、本人とはコミュニケーションを密にし、信頼関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントの時などに、家族へは、入居後の生活がどのようになるのかを十分に説明し、安心できるように努めています。また、電話等での連絡を随時行い、施設での生活の状況を報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居直後は、事前の説明が十分に行われていたとしても、本人も家族も大変な不安の中にいると思われます。個別の認知症状を早期に把握し、必要とする支援につなげています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当施設の理念のとおり、介護する人、される人という関係ではなく、支援にあたっています。利用者、一人一人ができるレベルの軽作業を行っていただくなど、支えあう生活を行えるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	偶数月の家族会や、月に一度の来所時に面会を支援するなど、家族の絆を大切にしていますが、今年度はコロナの影響で難しい状態にあります。電話の取次ぎなどで、会話を楽しんで頂いたりしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	No.19にも記載のとおり、今年度は、馴染みの人に会うことが出来ませんでした。終息次第、また関係づくりを支援していきます。	コロナ禍前、近所の茶飲み友達や隣接しているデイサービスの利用者へ面会に出かけている。利用者の希望で、しだれ桜が有名な神社、夏井川溪谷、小玉ダムに出かけている。体調に合わせて、一時帰宅や墓参り、馴染みの理美容室に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症状が一人一人違うため、会話時は職員が仲介に入り、伝え合うように努めています。また、理解できない行動などには、丁寧に説明し、利用者同士の関わりを支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りによる終了ですが、家族も含めた看取りケアを行い、また、看取り後は、家族へのグリーフケアで精神的なケアを行うなど、その都度、場面に合った継続的な支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成時、十分な聴き取りを行い、今までの暮らしを理解し、できる限り本人や家族の希望に添える計画を立案し、実施しています。認知症状が進むと、支援困難な場面がありますが、尊厳を守り、可能な限りの支援を続けています。	入浴時、夕食後などに、思いや意向を聞いている。利用者が体調不良時に思いを把握し、娘と孫の話をし、体調が回復している。車イスを使わずきたいとの要望に、歩行器の利用を職員で共有し、取り組んでいる。難聴の人には筆談をしたり、笑顔で接している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のこれまでの生活歴や暮らし方は、本人や家族に、色々な話を伺い、日々の支援に役立てています。また、何気ない日々の会話の中にも、支援へのキーポイントとなるような内容もあり、職員間で情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人、認知症状、病歴、体力、性格、出来る、出来ないは様々です。職員全員がそれを理解し、一日の過ごし方の工夫をし、良い所を活かして生活できるような支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度の部会時ばかりではなく、毎朝のミーティング時やモニタリング時なども、何か課題があれば、解決に向け話し合い、それらを介護計画に反映させています。	特技や趣味など、女性は裁縫や編物など日常が継続できるようにし、アセスメントなどで得た情報で一人ひとりの介護計画を作成している。レベル低下が明らかになった時、どの部分がどの位、低下しているかを話し合い見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や業務日誌、連絡帳などに、日々の気づきを記載し、職員全員が情報を共有できるよう努めています。また、計画作成担当は、職員からのそうした情報を基に、計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度はコロナの影響もあり、サービスの多機能化は難しい状態にありましたが、できる限りのニーズに応えていけるよう努めました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	山間地で、花見や紅葉は素晴らしい場所があり、四季を楽しむには最適な地区です。今年度はドライブなどで楽しみました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携をしている内科医師は隔週で、歯科医師は随時往診して頂いています。	入居時にかかりつけ医について話し合い、協力医療機関に変更する方もいる。身体状況に応じて必要な時は、医療機関に相談して利用者・家族に安心してもらうようにしている。受診は職員対応が多く、受信結果は、薬や医師の方針を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	代表者が看護師で、利用者の健康管理や、変化がある時に対応している。受診、往診の判断も早期にでき、利用者は安心した看護を受ける事が出来ます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時などは医療連携医師を通じて、他医療機関への紹介がスムーズで、適切な入退院が出来ています。また、入院時は退院時期などについて、医療ソーシャルワーカーへの連絡など連携が出来ています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は3名の看取りを行いました。職員全員が利用者の状態を理解し、看取りに向けた支援を行い、見守りました。ご家族には看取りアンケートにおいて、望む看取りについて十分に話し合いました。	入居時に看取りについて話し合い、症状の変化時にこまめに看取りアンケートを取って、家族の思いを医師、看護師と共有し対応している。終末期の対応については、経験のある職員が、その都度一緒にケアすることで共有し、次の看取りに活かすようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを通して、職員が行うべき事を確認しています。また、実践力が身につくように、随時、看護師が指導しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、火元を変えて避難訓練を行っています。認知症状がそれぞれ違うので、どの様な誘導で避難して頂くかなど、部会等で確認しています。	消防署の協力を経て、訓練を行っている。訓練後、火災報知機を押すタイミングなどのアドバイスをもらっている。職員は避難訓練に全員参加できるよう、勤務体制を調整している。主に火災、風害、地震を想定し訓練をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛け一つで、傷ついてしまったりしない様、職員は利用者の歩んできた人生を把握し、人格を理解して支援に努めています。また、個性を尊重し、どの様な対応をすれば良いのか、常時、カンファレンスを行っています。	事業所は、自尊心を損ねない言葉使いで対応するよう職員に伝え、事業所外では利用者の話はないように指導している。利用者同士で、尊重やプライバシーを損ねるような時は、管理者が中に入り、十分話合いの機会を作り、互いに孤立しない関係作りを支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が9名という事で、職員は関係性を作りやすく、毎日の会話のなかで、思いや希望を聞き出しやすい状況にあります。認知症状が進むと自己決定が難しくなりますが、寄り添いながら、出来る限りの自己決定を引き出す様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は「何時に〇〇をする。」と、決まり事を優先しがちですが、一人一人のペースに合わせた、その人らしい個別支援優先を心掛け、実施しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は不潔にならない様に、汚れがある時には、その都度、着替えて頂いています。認知症も進んだ方もいて、おしゃれには無頓着になりがちですが、職員は、一人一人に着やすくて、似合う衣服選びが出来る様、支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	臥床状態の方など、介護度の高い利用者が多く、全員で準備や片付けは難しいですが、出来る方には、食材の下処理や茶碗洗いを一緒に行っています。四季の行事には、行事食を楽しむなど工夫をしています。一人一人の好みを把握し、提供できる様にしています。	その日にメニューは職員が作成している。介護食が中心となっているが、その人に合った形で、季節の食材を取り入れ、食欲が出るように見た目も工夫している。一人ひとりペースに合わせて、食事ができるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の摂取量や水分摂取量は、個人記録に記録し、バランスが取れて摂取出来ているか、毎日確認しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っています。夕食後は義歯を外し、洗浄しています。認知症状が進んで、一人での歯磨きが難しい方でも、職員が隣で介助し、清潔の保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンや量を把握し、失敗のないよう声掛けをし、トイレ誘導するなど自立支援を行っています。また、臥床状態だった方が機能訓練により、立位が安定するようになり、トイレ介助にて排泄しています。	日中は出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。自立歩行が困難な方には、歩行器、車イスでトイレ誘導し、見守りをしている。失敗した時は、責めたり、衣類交換時に声を出すなどしないで、速やかに清潔の保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防対策の為、ヨーグルトは、毎日摂っています。また、食事は野菜中心で、食物繊維が多く取れる様に心掛けています。また、便秘が長引いて体調を崩さぬよう、服薬や座薬で対応する事もあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応、入浴曜日や時間の予定は立てていますが、職員の都合という事ではありません。その時々利用者の状態に応じ、無理せず、楽しく、気持ち良くさっぱりして頂ければと、支援しています。また、臥床状態の方の入浴など、個々に添った支援をしています。	同性の介助を望む方には希望に添うようにし、異性の方でも嫌がらないように取り組んでいる。菖蒲湯やゆず湯など、季節感のあるお風呂を楽しんで貰っている。脱衣所と浴室の温度差をなくすよう、エアコンやファンヒーターで体に負担がかからないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、作業や工作、体操やレクリエーションなどで程良い疲労感を感じて、夜間、安眠が出来る様に支援しています。また、一人一人の生活習慣や体調、体力に応じて午睡をしている方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者1人に職員1人が係になっており、服薬の管理をしています。利用者は9名のみなので、係以外の職員も薬剤の理解はしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除の雑巾掛けやモップ掛け、洗濯物たたみ、新聞折り、ウエス切りなど、色々役割を持って職員が見守りながら行っています。裁縫や編み物など特技を活かした事もしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援については、今年度はコロナの影響で、本人の希望に添った外出は難しい状態にありました。人との接触がない近隣の散歩などは、見守り同行を支援しています。	暖かい時は、ウッドデッキで外気や日光浴をし、リフレッシュするようにしている。行事で出かけるときは、失禁時の着替えや、行先のエレベーターやボランティアを確認し、職員の家族の協力を得て出かけている。季節に応じて、花見や紅葉狩りに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症状の進んだ利用者の中には、物盗られ妄想が強い方もいるので、お金の所持はご遠慮して頂いています。欲しい物や必要な物がある場合は、家族に連絡し、購入して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話を掛けたり、または、家族からの電話を取り次いだりは随時行っています。また、手紙を出す方もいて、切手を貼ってポストに投函するなどを、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、工作飾り、絵、絵手紙、ポスター、生花、植木鉢などを飾り、四季が感じられるように工夫しています。また、温度に配慮しながら、コロナ対策もあり、時々、換気しながら、常に、気持ち良く過せるように支援しています。	居室で過ごすことが多い方でも、食事やおやつのは、共有空間で過ごしてもらうようにしている。居室よりホールを好む方がいて、昼寝もホールでしている方もいる。転倒防止のため、その方に合った福祉用具を考え、使用状況を観察し、適切に対応している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの過ごし方は、一人一人、自由にして頂いています。利用者や職員との会話を楽しんだり、新聞や雑誌を読んだり、様々な過ごし方をしています。職員は、そういった心地良い状態が作れる様、工夫し、支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	各居室の部屋係があり、衣類などの私物の整理や、利用しやすい家具の配置、温度や換気の管理など、全てにおいて心地良く過せるような環境整備を行っています。また、孫やひ孫の写真、バースデー色紙などを飾り、利用者が眺めて癒されるように工夫しています。	本人の作品、仏壇など何でも持ち込んで貰い、回想法に使うにしている。身体状況に応じて、ベッドの位置を変えるなどしている。清掃や衣替えは、居室担当職員が行い、清潔に整理整頓している。入り口に、利用者名を書いた名札を貼り間違わないようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症状の進んだ方が多く、本人が「出来る。」「分かる。」と言っても、転倒などの危険と隣り合わせです。職員は工夫しながら、常時安全な環境作りをし、一人一人の残存能力を活かし、可能な限り自立した生活が出来るように支援しています。		